第52回
企画展

文化の森開園25周年記念事業「ヒトガタをめぐる冒険」

描かれた阿波の人物

『阿淡狂歌人名録』より

2015年10月27日(火)～2016年1月24日(日)

鎧山谷右衛門（明治前期）

文書館2階 展示室

入場無料

開館時間：午前9時30分～午後5時

休 館 日：月曜日、第3木曜日、年末年始（12月28日～1月4日）

展示解説：2015年11月15日(日)・2016年1月10日(日)

平成27年度徳島教育の日実施事業　第17回徳島県民文化祭共催事業

文化の森総合公園 徳島県立文書館

ごあいさつ

本年、文化の森総合公園は、開園二十五周年を迎えます。その記念事業として「ヒトガタをめぐる冒険」を統一テーマに、各館でそれぞれの特性を活かした催し物や展示を開催することになりました。

当館では、江戸時代の阿波の人びとを描いた版本や絵像の展示を中心に「描かれた阿波の人物」と題して企画展を開催することにしました。「絵画に見える阿波の庶民」のコーナーでは、御絵像（日本画の精密な肖像画）に描かれた藍商人の絵姿や江戸時代後期に出版された『阿淡狂歌人名録』・『阿淡狂歌三十六歌撰』及び『阿淡孝子伝』等に見えるさまざまな阿波の庶民の姿を紹介します。また、色鮮やかに描かれた阿波出身の力士絵（錦絵）もあわせて紹介します。

次に、「人相書」では、当時の人相書きがどのように個人の特徴をとらえ、それを文字で表していたかを残された古文書から紹介します。「写真に見る明治初期の阿波人」では、明治時代のガラス乾板に撮影された写真をとおして、それまでの手書きの絵姿から写真機で撮影された人物画像へと変化していく時代の流れを紹介します。

それぞれの時代に描かれた人物像には、時代の特徴が表れており、それらは、当時の人びとの生活や社会の様子を窺うことができる重要な資料となります。本展が地域徳島の歴史と文化を深めるとともに、記録資料を後世に伝えていくことの大切さを認識していただく機会となることを願っております。

終わりに、貴重な資料をご提供いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成二十七年十月二十七日

徳島県立文書館長　山下　知之

相撲絵に見る阿波人

江戸後期、阿波国は領主である蜂須賀家の奨励もあり、相撲が盛んであった。文化八年（一八一一）に出版された『阿波名所図会』の鳴門木津の金毘羅神社境内で行われている相撲の絵を見ても、たくさんの人びとが見物に集まってきている様子を伺うことができる。また、徳島城下などで行われた相撲興行の番付なども残されている。

郷土史家であった故岩村武勇氏は、徳島県相撲連盟編『阿波相撲史』の監修をされるなど、徳島における相撲の歴史に造詣が深かったが、収集した資料の中には、阿波に関わる力士の鮮やかな相撲絵を多く所蔵されていた。中には、阿波国内出身の力士も含まれている。ここでは、阿波人の姿を描いた絵として、岩村家文書に含まれている阿波出身力士の相撲絵を紹介する。

相生松五郎（江戸末期）

絵画に見える阿波の庶民

写真がなかった江戸時代を生きた庶民の姿を伝えるのは、絵画が中心となる。都会である江戸や大坂の人びとを描いた絵画や版画は数多く作られてきたであろうが、地方である阿波国の人びとを捉えた絵画は数が少ない。

文書館資料の中で、阿波の庶民を捉えた絵画と言えるものは二つの種類がある。一つは御絵像といわれる日本画による精密な肖像画である。こうした御絵像は、先祖の生きた姿を画家の手によって後世残すために描かれたものであり、富裕な商人の家などにしか残されていない。文書館には、小松島で廻船を行う豪商であった井上家と、西覚円村（現石井町）の大藍商であった志摩利右衛門の絵姿を収蔵しているが、どちらも細密で、江戸時代阿波の藍に関わる豪商の姿を今に伝えている。

井上甚右衛門（4代）昌章　絵像

もう一つが、阿波国内で企画・発行された出版物に挿絵などとして描かれた人びとである。『阿淡孝子伝』は、徳島藩士の福田林右衛門愛信が文政二年（一八一九）に前編三冊、文久二年（一八六二）に後編七冊を刊行した木版の刊本である。この本は江戸後期、藩によって褒められた、親や祖父母に対する孝行や主人に対する忠義について書き上げてある。前編では五十四件、後編で百六件の話を載せているが、その内六十二件には挿絵が入れられている。この挿絵は後序によれば、位田渭川が書きためたものだと書かれている。渭川についてははっきりしないが、武士は含まれず庶民の姿が描かれ、小作などの低い身分の者から大商人や庄屋まで幅広い階層の人びとの生活が描かれており興味深い。

志摩利右衛門　絵像

最後に、天保期に作られた狂歌集に描かれた人びとを紹介したい。それは、天保三年（一八三二）に刊行された『狂歌阿淡百人一首』、『阿淡狂歌三十六歌撰』と天保五年（一八三四）に刊行された『阿淡狂歌人名録』の三冊である。この三冊は作られた年代も近く、重なって掲載されている人物も多いが、それを差し引いても一九八名の人物が挿絵入りで描かれている。天保三年に作られた二冊は「百人一首」や「三十六歌仙」のパロディであり、それぞれ阿波と淡路の狂歌師たちが取り上げられている。また、『阿淡狂歌人名録』は狂歌サロンに集い語り合う様子を絵にしたものである。どちらも画工は江戸や京都の人で、本人を見て描いたのかは不明だが、着ている物や小道具には個性がある。掲載されている狂歌師一九八人のうち四割強は城下町徳島の人物、淡路国内が一割弱を占めるが、撫養（現鳴門市）・鴨島（現吉野川市）・小松島・富岡（現阿南市）・黒地（現阿南市）・市場（現阿波市）・石井（現石井町）・仁宇（現那賀町）など地方の人物も含まれており、阿波国内で狂歌を楽しんでいた人びとが意外に広がっていた様子を知ることができる。

狂歌集・孝子伝の挿絵に見る人物

一 狂歌集に見る阿波の人物

楽しげに集う阿波・淡路の狂歌師たち『阿淡狂歌人名録』天保5年（1834）より

六々園春足
（ろくろくえんはるたり）

名西郡石井村（現石井町）の藍商、遠藤宇治右衛門。文化・文政期の阿波・淡路狂歌界の大御所的存在。

倅　春道

娘　駒子

飯山亭喰主
（はんざんていくいぬし）

麻植郡飯尾村（現吉野川市鴨島町）の石原熊左衛門利勝。『阿淡狂歌三十六歌撰』の版元。

六根園春根（読み不詳）

徳島城下堀裏町（現徳島市南内町）の人、瀬部春暁。号は旭桜園。『阿淡狂歌百人一首』の版元。

父　十蔵

娘　喜佐

神壽堂松洲（読み不詳）

勝浦郡和田島村（現小松島市和田島）の庄屋（郷士）、森民蔵。

二　阿淡孝子伝に見る人物

いそ女　南大工町（現徳島市）

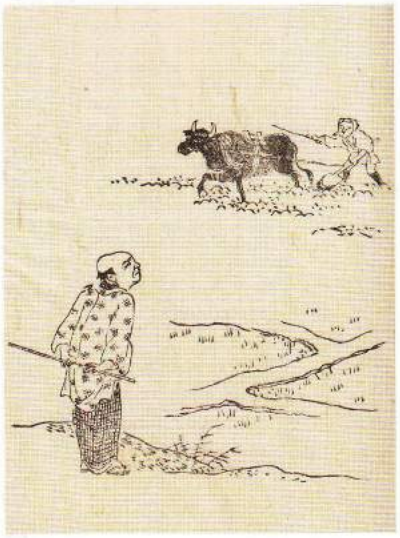
寺沢善次右衛門の養女。手習いの師匠などを務めながら養父母に孝養を尽くす。中風を患った養母を人形芝居で慰めている図。

長右衛門　斉田村（現鳴門市撫養町）

老いた兄やその子の世話をする。正直一途で利の多いものは他者に譲ることが常で、製造する塩の評価も高かった。製塩の図。

左次兵衛　池田村（現三好市）

常に貧者を助け、隣村の訴訟を内済する際手本となる。一刀を帯びることを許される。貧者の耕作用に牛を貸し与える図。



適心齋宗畔　籠屋町（現徳島市）

籠屋町、元山崎屋伴五。両親に孝養を尽くす。明和七年母の死後剃髪。両親の像を背負って西国巡礼の図。

人相書

文字から人の顔を想像する

江戸時代の人相書きは、お尋ね者の簡易な似顔絵が描かれているというイメージがあるが、実際には、年齢や顔の形、傷跡、背格好、衣類などを文字によって書き上げたものであった。当時の旅行者は、寺が発行する人別送り状、庄屋などが発行する証明書、入国切手など、自分の身分を明らかにする文書が必要であり、その上でこうした人相書きを廻達することで効果を上げていたのだろう。ここでは、当時の人相書きがどのように個人の特徴を捉えていたのかを見てみたい。

「仕上御請書付覚」　安政2（1855）年　武田家文書
公儀御尋者　江州（近江国）高島郡小荒路村（現滋賀県高島郡マキノ町）金蔵人相書

「中丈中肉（中肉中背）、顔常体、色黒く、頬すほり、目少し大き方、鼻常体、髪・月代・眉毛とも薄き方、髭無し、耳・口常体、歯並び常体、言舌常体」とある。

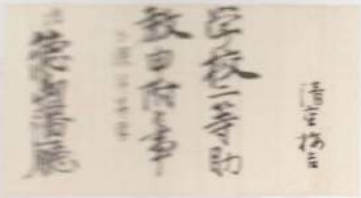
「覚」　酉（天保8年）2月26日　大塩平八郎他一党の人相書　近藤家文書

大塩平八郎の人相書きには、「年齢45,6歳ばかり、顔細長く、色白き方、眉毛細薄き方、額開き、月代青き方、背格好常体、中肉」とある。

写真に見る明治初期の阿波人

ガラス乾板などに残された阿波の人びと

杉原専方と清重惟一



杉原専方と清重惟一は、明治三年に作られた、徳島の藩校長久館の洋学教師であった。清重惟一には徳島藩の洋算学助教申し付けの辞令が残っている。明治四年二月二日撮影。

（洋装）

（和装）

佐藤忠五郎

三野町（現三好市）芝生の人。明治中期頃撮影。

徳島県知事　酒井明

酒井明の家族（県知事官舎）

尾張国名古屋（現愛知県名古屋市）の人。明治十三年三月、徳島県大書記官となり徳島へ来県。同年十二月徳島県令に昇格した。同十九年七月初代徳島県知事となり、明治二十二年十二月までその職にあった。

展示資料一覧

No.	表　　題	年　代	資料番号
阿波商人の御絵像			
1	井上甚右衛門（4代）昌章　絵像	不詳	井上家文書
2	井上甚右衛門（5代）昌明　絵像	不詳	井上家文書
3	志摩利右衛門　絵像	不詳	ｼﾏｹ 00018
阿波出身力士の錦絵			
4	相生松五郎	（江戸末期）	岩村家文書
5	黒雲改　雲龍浪右衛門	（明治前期）	岩村家文書
6	剱山谷右衛門	（明治前期）	岩村家文書
7	響矢春吉	1889（明治22）年	岩村家文書
狂歌集に見る阿波人			
8	阿淡狂歌三十六歌撰	1832（天保3）年	ｲﾜﾑ 00993
9	狂歌阿淡百人一首	1832（天保3）年	ｲﾜﾑ 00995
10	阿淡狂歌人名録	1834（天保5）年	ｲﾜﾑ 01315
11	狂歌鯉鱗集	1835（天保6）年	ｲﾜﾑ 01316
12	覚（名西郡桜間池碑石運搬尽力につき褒状）	1833（天保4）年	ﾓﾘ 300040
13	高木真之助（呼出状）	1833（天保4）年	ﾓﾘ 301012
阿淡孝子伝にみる阿波人			
14	阿淡孝子伝前編一～三	1819（文政2）年	ｲﾜﾑ 00499～501
15	阿淡孝子伝後編一～七	1862（文久2）年	ｲﾜﾑ 00502～508
人相書			
16	仕上御請書附之覚（御尋者人相書御触達、控）	1855（安政2）年	ﾀｹﾀ 00096
17	仕上御請書附之覚（御尋者人相書御触達、控）	1862（文久2）年	ﾀｹﾀ 00097
18	覚（大塩平八郎等召捕方並に人相書の件）	1837（天保8）年	ｺﾝﾄ 00080
19	左之通（徒場脱走者讃州寒川郡鶴羽村重吉人相書）	1872（明治5）年	ﾐﾏｹ 00327
20	名東県布達第百三十一号（左書人相書）	1875（明治8）年	ｵｵﾀ 01261
明治の写真（ガラス乾板とブロマイド）			
21	杉原専方（政市）・清重惟一（梅吉）肖像写真	1871（明治4）年	ｷﾖｼ 00048
22	清重梅吉（洋算学助教辞令書）	1870（明治3）年	ｷﾖｼ 00044
23	佐藤忠五郎（洋装）	（明治中期）	ｻﾄ 200354
24	佐藤忠五郎（和装）	（明治中期）	ｻﾄ 200355
25	浅香虎吉像	1883（明治16）年	ﾀｶﾐ 00962
26	粟飯原与一像	1877（明治10）年	ｱｲﾊ 01116
27	徳島県知事酒井明像	1885（明治18）年頃	酒井明家文書
28	酒井明家族（徳島知事官舎）	1887（明治20）年頃	酒井明家文書
29	酒井明（書簡、官舎建築に際し梅樹寄贈礼状）	1887（明治20）年	ｵﾉﾃ 00539
30	露口真七（褒状、県立徳島師範中学両校建築費寄付）	1886（明治19）年	ﾂﾕｸ 00535

※資料保存のため展示品の一部を替えることがあります。

五月庵綾女（さつきあんあやめ）
徳島城下杉屋町（現西新町付近）
大坂屋弥助（紀安足）の妻
『狂歌阿淡百人一首』より

第五十二回企画展
描かれた阿波の人物
平成二十七年十月二十七日　発行

編集・発行　徳島県立文書館
〒770-8070　徳島市八万町向寺山
電話　〇八八（六六八）三七〇〇

印　刷　原田印刷出版株式会社
〒770-0935　徳島市西大工町四ノ五
電話　〇八八（六〇）二二三五六